

京交山岳部報

№313

'78 11月号

〔第1194回例会〕 石田和男・山下周道氏退職記念例会

北山 井ノ口谷山 △779

日時 11月12日(日) 上賀茂御壺橋東側上ル 8.30集合 マイカー調整
 コース 萩馬一別所一大布施一原地一井ノ口谷林道…鍋谷山△779m…台杉群生地
 見物…井ノ口谷林道一往路帰京

担当者 本局 宮後正樹(TEL 251)

会費 1,000円(記念品代を含む) 記念品のみ賛同者も申込んで下さい。

〔第1195回例会〕 京都府下30山 その17

小和田山

日時 11月23日(祭) 西京極スポーツセンター前 9.00集合

コース 西京極一亀岡一湯ノ花温泉一千ヶ畑…小和田山

担当者 本局 大槻雅弘(TEL 269)

〔第1196回例会〕 京都府下30山 その18

夫婦岩

日時 11月26日(日) 福知山行6.44 京都駅発の列車に嵯峨駅から乗車

コース 京都一上夜久野…小倉…△597.7 往路下山

担当者 本局 坂井久光(TEL 629) 前から1輦目に乗車して下さい。

今月の集會

日時 11月10日(金) 午後7時から 下鴨寮
 議題 1. 例会(№1191~1194回) 部員動静 報告
 2. 12月例会及び納山祭について
 3. 退職記念登山行の打合せ
 4. その他 連絡事項

—当番 櫻柳支部—



愛宕さんの傷

宮 後 正 樹

記録づくめだった猛暑もようやく終りめっきり秋らしくなって空気が澄んでくると京都をとりまく山々も美しく近く見えるようになる。東の霊峰比叡山に對峙して西に聳える愛宕山は信仰の山として京都人は愛宕さんの愛称で呼び合いお詣りに、ハイキングに、登山のトレーニングにと親しんでいる。ところが最近あのこもりとした山頂の右肩に赤茶けたガレが一筋、長く刻まれて深い傷痕となって痛々しい姿を露呈しているのを街から眺めて既にお気付きの人も多いと思う。

年に10数回と愛宕さん詣りをされ部報にも毎々報告を寄せておられるHさんやTさんからもこの惨状について今だに報告が届かないので、去る9月17日の日曜日午後、この目で現場を確かめてやろうと急に出かけて見た。梨ノ木谷林道の途中から伐採地を登って小尾根の踏跡をたどり月輪寺の上部で登山道に合し間もなく愛宕神社の下に出る。早速北へ採掘現場へ急行すると首無地藏・高雄へ下る道沿いからブルに削り取られた道路が上っており入口に「歩行者にお願い」という看板があって、1. 山道が荒れていますので足許にご注意 2. 作業場内には危険につき立入禁止、特にブルドーザー運転中の危害予防と頭に落石、足下崩壊の危険予防のため 3. 発破作業中は飛石の危険あり、係員の指示に従って赤い旗の外側に退避し発破終了の合図があるまで通行止め、大阪通産局・太秦警察署よりの厳命あるため 4. 山火事の危険あり、マッチ煙草たき火に注意 作業許可45大鮎584号 事業主加藤 山林所有(管理)者 下京区大宮五条下ル二丁目 加藤碓石 広業所 加藤晴夫 351-0115と掲出してあった。

飯場の上で石を割っていた作業員に声をかけると、こんな所へ上って来たらあかんと一かつ叱られた。土砂の上に登ったブルのうなっている下を覗くと三角点のピークの下がガッポリとえぐり取られ道路の土砂を斜面に落していたのである。もうここまで来てしまっただけではこの惨状はどうにもならない。業者としては一応許可をとり掲示を出して作業を進めているのだから後は許可を与えた行政側の責任としてどれだけの監督・指導をやり採石後の緑化回復を義務づけ実行させるかである。

作業許可45大鮎584号をもとに大阪通産局、太秦警察署、京都府庁にそれぞれ照会したところ、そのズサンさに驚いた。許可を出した大阪通産局では当時の文書が見当らず昭和46年6月の「採石法」の大改正で現在は京都府知事の認可・指導下に移っておりわからないという。また業者が掲げていた許可番号は間違いで撤去させた筈だが調べてみると「事業着手届」の受理通知書の文書番号であることが判明した旨回答があった。

厳命によるという太秦警察署の話では、発破の危険防止から警察署名を無断使用し掲出していたもので早速看板の内容を訂正のうえ掲出すると申し出たそうである。

さらに府土木建築部砂防課からは、1. 標識に不適切な点があり早速業者に指導のうえ改善させました。 2. 採掘の範囲は南北に幅70m、東西に幅50~96mの範囲内で採掘する計画とな

ています。 3. 採取場内はすべて個人の所有地になっています。 4. 跡地の緑化復元については採掘終了後廃石で埋め戻しのうえ緑化を図る計画となっています。との回答があった。

作業許可期間は56年2月15日までというからまだ2年以上も採石が続行されるわけだがどうかこれ以上採掘範囲外への自然破壊はやめていただきたい。そのための業者の自覚と主管庁の指導監督を皆んなで注視し、1日も早く愛宕さんの傷が癒され元の美しい姿に戻る日を鶴首するものである。

第1188回例会

鴻 応 山

大 槻 雅 弘

山の形、名称等はいろいろなものがあ、形は二つと同じものが無いが、名称となると全国で同名のものやめずらしいものがある。鴻応山(コウノヤマ)と読む。この山名も数多い山名ではなくめずらしい方に属するだろう。京交の府下30山の一つに選ばれ、小生が登る気持になったのは、一つには山名に、一つには昨年登った歌垣山から見た形にひかれたからだ。

例会に出して9月3日に登る予定が、体調をくずし9月17日に延期し、武田、三橋、吉田、各ファミリーと小生の家族車4台にて西京極体育館前を出発した。

暑かった長い夏も終り、丹波路は秋の風を山路に、車窓に運んでくれた。空は夏の海の紺碧が反射し写し出したようなブルースカイ。

1時間足らずで目的地の撰丹街道を京都から大阪府の境にある牧という部落に着く。目の前に鴻応山があり東に張り出した尾根が長く続く。車を停めて地図を広げ登路を考える。里山で、本当に目の前にピークがあり、どこからでも登れそうだが、かえってこんな山ほど小径がたくさんあり登りにくいものだ。結果、地元の人に聞いた寺田部落より登る事にした。

消防分団の小屋の横に駐車させ、道を隔てた一段高い所にお宮さんがある。その横をお宮さんを捲くようにしている道を登る。すぐに竹藪の中に入り薄暗い中を少し歩くと開けた杉の植林された斜面に出る。踏跡もしっかりしているのでその径をたどったが、途中でブッシュの中に入りやがて径も消える。

小さい子供もいるのでなるべく歩きやすい様にと考えたが、結局道もなくなり木々の開けた所を歩く。30分ばかり歩いた所で急に立派な1mばかりの道に出る。一同これで頂上迄だいじょうぶと安心したが、これが又山腹を捲いている道で途中で終ってしまった。止むなく杉の木立の急坂を登る。登り切った所で又、しっかりした踏跡の径に出た。どうも1本でいい道は続いている。一息入れた後、いばらやつるに足を引っぱられながら頂上に着いた。

形もよし、名もよしと思った山は、頂上らしからぬ所で暮切れとなり、里山という感じだけが残

った。木陰の中でわずかの日当りを求め昼食としたが、風も冷たく「寒い、という声で頂上を後にした。

参加者 武田、三橋、吉田、大槻と各家族

第1189回例会

丹後の山 太鼓山と依遅ヶ尾山

岡田茂久

府下30山のうち丹後半島の一等三角点太鼓山と依遅ヶ尾山は、本来お月見登山とされる予定であったが、申し訳けなくも担当者の都合で、満月にはほど遠い9月2・3日になってしまった。それでも2日の集合時刻の西京極球場前には車5台総勢24名が集り、おかげさまでにぎにぎしい山行となった。

9月に入ってますます残暑きびしい9号線を一路西へむかい、福知山市内では、たっぷりと飲物を仕入れて当夜の幕営地大江山普甲峠には、思ったより早い時刻に到着することができた。

幕営地は水場のないスキー場。あてにしたロッジの管理人が不在で水道が断水し、荷物になるかなと危ぶんでいた20ℓのポリタンク3本の本領をはしなくも発揮することができた。普甲峠は標高400mあまり、早くも秋の気配を感じさせる風が吹き渡っていた。

この峠はかつては、丹後と丹波・京都を結ぶ重要な路であった。今でも宮津市よりこの峠へ到る道を京街道と呼ぶ、それだけに古くより開け峠にまつわる物語りにはことかかない。室町時代より江戸時代にかけて作られたという「御伽草子」には有名な酒吞童子の物語りがある。この話とはとも「今昔物語」にある「妻を具して丹波国に行きし男、大江山にて縛られたる話」と同様、京都西山老の坂（大枝の峠）が舞台なのだが、峠下の二瀬川溪谷の奇岩怪石や不気味な洞くつを有するここ大江山の方が舞台としてはびったりする。

この峠はまた、大江山の鬼退治の功により丹後の守となった藤原保昌を訪ねてその妻和泉式部も越えた路であった。「大江山いくのの道の遠ければまだふみもみず天の橋立、これは和泉式部の娘である小式部の内侍の歌である。和泉式部といえば、5月の紀州護摩壇山の山行の折、帰途に訪ずねた能野本宮に「はれやらぬ身のうき雲のたなびきて月のさわりとなるぞかなしき、という歌碑があった。せつかく式部が参詣にきたのに「にわかになさわりきたりて、身体が穢れて社前に進むことができないのを残念がって詠んだというものである。その返歌に熊野の神が詠んだ文句がけっさく。「もとよりもちりにまじわる神なれば月のさわりもなにかくるしき」。

「お伽草子」には又とんでもない和泉式部像が画かれている。ここでは藤原保昌は橋保昌となり、二人は十代の火遊びで子供ができ「あひの枕の睡言にはづかしとや思ひけん、とその子を五条の橋に捨ててしまっている。現代の無責任な若い母親がロッカーに捨てるのと同じでそもそもの始まり

ではないだろうか。この物語りには続きがある。その子は比叡山の僧に育てられ、長じて道命という名をもつ僧となった。ある日宮中で法華の講をつとめたおり風に御簾が吹きあげられ、ちらりとかひ間みた女房が忘れられなくなる。それが和泉式部であった。道命はミカン商人に化けそしてついに思いをとげる。しかしついに式部は道命の守り刀よりその素性を知ってしまう。そして式部は“親子を知らで逢う事もかかるうき世にすむ故なり。と菩提心をおこし播磨国書写山にのぼり性空阿者利のもとで余生を過すことになる。なんともいやはやというところだ。

書写山には和泉式部の歌塚というものがある。現在は石積みもくずれ何が刻まれていたかもさだかでない。ともあれ平安の当時としては和泉式部ほどあちこちを旅した女性は他には少なかったのでは。

話がとんでもない方にそれしてしまった。普甲峠の風はあいもかわらず強く、テントの設営には苦勞する。逆光に黄金色に輝いていたススキの穂が薄曇りに沈むころ、明かるいランプの光が広がり豪華な夕食が始まった。あいにく天候のほうはあまり思わしくなく、月のかわりに期待した星空ももう曇りてがっかり、そのかわり食後は京交始まって以来、山の中でテントをスクリーンに8%映画会。もりだくさんのお月見行事で子供達も大満足し、明日にそなえ思い思いにテントにもぐり込む。一方では鬼退治に一役かった鬼が呑めばその神通力は失せ、味方が呑めば薬となる“神便鬼毒酒。にまごう、安芸の名酒“賀茂鶴。にこきげんの高原の一夜である。

依遅ヶ尾山(540m)は、私の田舎が網野で、ときおり丹後半島一周道路を經由して帰京おりなど、女性的なならかスロープをもつ礎高原をバックに、男性的な海岸線よりせり上る奇異な山容となにかいわくありげな山名は、登高意欲をそそるものがあったものである。

又太鼓山(683m)は今のマイカー登山の草分けともいうべき山行に名を連れた山で、細川ガラシャ夫人の物語りに名を残す味土野の金剛童子山、天の羽衣伝説をもつ磯砂山(足占山)と、そして太鼓山の三山を今は懐かしいキャロルやベレット等に分乗し、その頃はまだ舗装も完全ではなかった夜の国道9号、27号を走り通し、へとへとになって太鼓山の麓にある須川の部落外れのニワトリ小屋と並んでテントを張り仮眠、夜明けとともに一気に登頂した思い出の山である。須川より太鼓山三角点まで2時間藪こぎのきびしいルートであった。昭和41年5月のことである。

心配した天候もどうやらもちそうて、薄日のさす普甲峠を出発したのが8時。夜中に峠を越えていった暴走族の一団のけたたましいエンヂン音に眠れなかったのか、それとも“神便鬼毒酒。のききめが残っているのか頭が重い。

迷路のような官津市内を通り抜け、途中不調を訴える車を一台、これからの山道を考慮して暮営用具もろともスタンドへ預ける。

磯砂山の登山口である車谷出合を経て、峰山より丹後町矢畑の部落へは細いそれでもきれいに舗装された道が登っていた。部落を通り抜け、2.5万匁にある依遅ヶ尾山への登山路らしき山道は、下草がきれいに刈りとられており、時間短縮にしめたとしたが、あにはからんや道の刈草にタイヤをとられスリップ、あえなく標高230m附近でダウン。道端に車をデポし、ワイワイガヤガヤ思

い思いに登山姿にかえ出発したのがもう10時をまわっていた。道は広く刈りとられしばらくは歩き易く緩い登りのつづら折れが続く。草刈機のエンヂンの響きに目をあげると、小さな山梨が鈴成りになっているのが目にとまった。帰途に一つ頂戴することにする。草刈りは村役(町でのミノ掃除のようなやり方)で、なんでも10月10日の村の祭りにはこぞって依遅ヶ尾山に登るのだそうでその準備ということであった。帰途にその由来でも聞くつもりであったが、あいにく昼休みになってしまい、みんな自宅に帰ってしまったのか、草刈機のみが転っており残念なことであった。歩き易いのはそこまでで、地図にみる傾斜の急なガレの所あたりは、岩石上が道となっており踏跡程度の道で、おまけに葛の密生地でツルに足をとられ歩き難いことおびたしい。葛の花の匂いもこれだけ密生すると相当なものである。

樹林帯に入ると道は急であるが歩き易くなる。子供達は元気なものですいすいと登っていく。こちらはもうとうにアゴがでてしまってトレーニング不足を痛感する次第。尾まで上ると幼松の植林帯となり、頂度背丈ほどでありチクチクし泣きだす子供もでてくる。最後の急坂を登ると小広い切開きとなりそこでは舞鶴勤労者山岳会の一団が昼食の最中であつた。頂上の三角点はもう少し先で藪の中にヤグラのみとの感じてあまり快適な場所ではなく、眺望は次にめざす太鼓山を望む山側のみが開けており、海はブッシュにさえぎられて見え、日本海を望むにはもう少し先の鼻までいく必要があつた。

この下の海の少し先の本庄浜には筒川宇良神社があり浦島太郎の伝説がある。浦島はすでに『日本書紀』に名を現し、『御伽草子』はもとより『丹後国風土記』万葉集にも現れ最も身近な伝説の一つである。又筒川宇良神社には今も玉手箱が残っており丹後半島一周道路から見る太郎が修行したという雲竜山の布引滝も一見に値する。

この他この海のもう少し西の丹後木津には山岳部平均年齢以上の方ならご存じであろうか、タジマモリの話がある。秦の始皇帝の命令で蓬莱山を求めて日本にやって来た徐福が上陸したのがこの先の新先の浜であり、タジマモリが不老不死の薬という現在の橋をもって帰り上陸したのが丹後木津とのことで、現に当地の学校はこの故事にちなみ、橋小学校、橋中学校といい、木津というのもこの橋の音読みよりでている。このあたりはどうも一つの伝言文が混同されて伝わっているようである。ともあれ丹後という国は伝説の豊富な所でどこを旅しても物語りには事欠かない。またまた脱線してしまった。

頂上でゆっくりと丹後の海と山を眺めるつもりだったが時間にせかれて早々に頂上を辞す。楽しみにした山梨の味はなんとも形容仕難く、それでもあの梨のジャリジャリした感触だけは口の中に広がっていた。帰途矢畑の分教場の水は最高に美味であつた。太鼓山へは矢畑より有名な神明山古墳と産土山古墳の裾を廻り竹野より平に出て、小さな峠を登りつめたところより、丹後半島一周縦貫林道に入る。このころよりやっとこさ持ちこたえてくれた天気があやしくなり、ポツポツとフロントに雨滴ができる。林道より振り返る先ほどの依遅ヶ尾山は印象的であつた。道は荒けずりであるが傾斜も適当で走り易い。

碓高原では今京都府の酪農プロジェクトが進行中であり、広大な牧草地と幾棟もある牧舎それに近代的な管理棟がほとんど完成間近かである。予定ではここで昼食とし時間があれば碓峠まで足を延ばしたいところであったが雨あしにせかれスイス村に急いだ。

太鼓山の下にはかつて炭山という山の部落があった。10数年前この丹後半島は豪雪にみまわれこの炭山も長い期間にわたって里の村との交流が断え、ついに離村を決意し住み馴れた村を捨てたのである。私達が41年に訪ねたときは、すでに離村より数年を経ており、早くも窓は破れ軒は傾き屋根は朽ち落ちてしまった家屋もあり、背を越すようなススキの群とむせるような新緑の中にしずまりかえており、廃村のわびしさがひしひしと迫るたえずまいであった。今はそのあたりは大きく変わり、弥栄町営でスイス村というものができ、京都府青少年山の家も新設され、夜間照明完備のコートには若人の喚声と活気が満ちあふれている。どうもゆっくりと昼食をとる雰囲気ではなく太鼓山の登り口である鴨池へと場所を変えた。鴨池もかつてのうっそうとした木々に覆われた面影はなく、大きく開かれた池には鯉や金魚の影も見うけられ、池面のヒシのみが往時のまゝのようである。

小雨の中でサンドウィッチをほろぼり、雨具をつけて太鼓山に向う。道は整備されており傘をさしたまゝで歩ける。10分余で霧雨にけふる山頂についたが、視界は悪く30山記念の標板を頂上の切株に打ちつけて早々に下山。熱いコーヒーで一息いれて雨の林道を南下する。途中角突山と霧降山の三角点を通り掛けの駄賃にと助平根性をだしたが、文字通り霧雨の降る中でついにみつからず、本降りとなった日置の町に走り込んだのは予定より相当遅れて5時であった。

宮津市内の混雑を予想して、野田川より与謝峠を越えて福知山経由で帰京したが、与謝峠では豪雨のためワイパーもきかず、河原と化した道路に立往生的一幕もあり、家族登山としてはきびしい山行となってしまった。

コースタイム

2日	京都	14.30	福知山	17.00	普甲峠	18.00															
3日	普甲峠	8.00	…矢野	9.40	…矢野出発	10.20	…依遅ヶ尾山	11.35	…12.00	…矢野	13.20										
	…碓高原	14.00	…スイス村	14.15	…鴨池	14.20	…14.50	…太鼓山	15.00	…15.15	…鴨池	15.25	…15.50	…日置	17.00	…加悦	17.30	…福知山	19.00	…京都	21.30

山ぐせ雑記

伊藤潤治

わが路面電車が消えた。従って電車の同志達も四散した。されど京交山岳部は健全なのである。山をよりどころの私には、山岳部の健在こそ電車を失った哀愁をたえるせめてもの糧である。

この秋は私のような者でも物思ふ季節になったようである。一人静かに盃をなめていたら春から

登った山々の面影が襲いかかってきた。しかもあなりれし甘美なる群となつてである。やがて酒が効いてきてちょっとわが山々を宣伝してみたくなり、書きはじめた。

1. $\Delta 430.2m$ (点名 篠村) 京都西北部

初登りは千支に因むなら鞍馬山がある。けれど私は山陰線馬堀駅近くにあるこの山 ($\Delta 430.2m$) の名が、馬堀山ではないかとにらんだ。標高は僅かでも二等三角点をもち、また私の住む図幅内の山でもある。

先づこの初参り、氏神詣でのようでもあり元旦の行事ならこれは上等であろう。元旦はまだ、降り足りない顔の曇り空であつたが出かけ「山本」より山道にかかり、小鳥たちのいちびりさえづる清々しい約1時間山頂に立つ。一次基準点測量(昭和52年7月6日)の測標からの眺望は、地蔵山・沢山の空を飾っていた。巨大な虹が忘れられない。山名はきき出せなかつた。

2. 竜馬ヶ岳 $\Delta 1501m$ 岩岳山 $\Delta 1369m$ 千頭

1月6日 3時30分竜馬ヶ岳をめざして発つ。気田営林署傾域造林事務所で主任氏の芳情により更に5km余、第294林班に入り11時35分、820m地点に駐車した。そして教わつたルート竜馬ヶ岳の東稜線が一は蕎麦粒山、一は大礼山方向の尾根に分れる辺りを水上とする谷ぞいの小道を探し探していく。広い斜面のこの谷間はほとんど伐採済、辿るのはかつての作業道だが私にはトゲ植物がしつこくからめつてきた。イバラ道も50分位の所でつなかり先が分からなくなつてしまふ。笹竹の群れを縫い右の尾根に取付くと、霧氷の鮮やかな別天地となつたがブナの大枝をちぎつて飛ばす。荒風が吹いていた。

東稜線へは13時35分、そこで富士山と今年初の対面、やはり美しい姿である。東稜線上は豊かな林相のたのしめる庭園のようなたづまいである。13時55分、ここが三角点のある頂上と思ひ辺りの木立に沢山(浜松清流会・浜松岳友・やいづー よんろく山岳会など)の竜馬ヶ岳の打標があるのに、私は標石を拝見できなかつた。ここでの眺望は霧氷を着飾つた高塚山 $\Delta 1621m$ のみせひ登りたい山である。

日本山岳志は竜馬ヶ岳を一遠江国周智郡ノ東方ニアリ 熊切村大字川上ヨリ一里八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山古生層ヨリ成ルモノノ如シ。標高凡三千尺。P 578一とのせている。

岩岳山 竜馬ヶ岳から往路をかえし平城より岩岳山休養センターで泊るべく訪れると、休業中。やむなく山中にあつた作業小屋で泊つた。この辺は風どころなのか、星はきれいだが木立をうならす風がうるさく明方まで吹いた。

1月7日、7時10分小俣造林事務所前に駐車、岩岳山に向ふ。ここは登山路をもち要所にやしおの滝、あかい滝、最後の水場、荷小屋峠や矢印など標識が多い。8時頃粉雪が降りだす。岩岳神社には9時5分詣でた。

ついでながらここに問れる竜馬ヶ岳の点の記(点名 千里原)にふれておく。その順路によると気多村大字小俣京丸字小俣ヨリ岩岳神社ノ小洞ニ至ル山道ヲ登ル一里半 小洞ニ至ル其レヨリ左方山頂ヲ進ム一里点ニ達ス とあり。これが正面な竜馬ヶ岳道であろう。岩岳山の三角点標石は9時35分めでたう確認。ここは全域ヤシオツツジ群の名勝地だが、私の場合荷小屋峠から岩岳神社の

間、その木立は霧氷の華をつけてきれいであったがその群像もさることながら淡い積雪下の凍結した山肌や、山頂へのヤセ尾根の一部(肝だめし)には、結構興奮させられた。曇天のため眺望の恵みから外れたが、ルートでは手応え充分の山であった。

3. 水沢岳△1029.7m 亀山

岩岳山のあと、山の仲間新年の集いと登初めとつづく。もしか荘(土山町)の宴では、松浦勇次・山下兼充・河村敏夫諸君に私の四名がポタン鍋を囲んだ。

1月8日、帰宅する溪さんを見送り、8時15分雨の中でもいく山下・河村両君の張切りに従う。11時27分三等三角点水沢岳着。これは「すいざわだけ」とよむが、近頃の五万分の一図は宮越山と記しているが、なぜか? このとき鈴鹿の空は山下・河村両君のはなやいだ声をこだませ、わが山の仲間の登初めを祝福していた。

4. 1月13日 19時、松浦勇次さんと中国の山旅に出る。臥竜山△1223m 木都賀

1月14日、長者平から輪かんをはき夢のようなブナの自然林を2時半のぼり、15時45分登頂。一等の標石は30分ほど横雪を掘りかえして探す。それと2年越の念願達成とで歓びのあまり祝盃は顔があおった。もううれしさに後の山は登らんでもええとまで思った。

1月15日、十方山△1318.9m 三段峽

立岩貯水池登山口からだが、急斜面と軟雪にてこずり上り2時間半、下り2時間、と説明付きのコースを5時間余りかかってなお山頂は遠くにあった。だがここまで来たからには矢張り恰好をつけねば引退れない。14時42分荷物を置き、空身で頂上をめざす。急斜面の積雪はしまっていたが、平坦面になるとよくもぐった。

15時22分、私は十方山二等三角点に思わず抱きついた。白く広い山頂には積雪がなく標石は観音像の如く現れ、私を待っていたよう。

1月16日、この日は冠山、羅漢山、のうが山といそがしくかけ巡った。

冠山△1339m 津田

吉和村汐原奥で駐車して歩き出し、10時10分輪かんをはく。今日は緩斜面の積雪の登りではじまったが、ビッケル、輪かんのトレースがありそれを辿れた。しかしトレースは頂上直下に至って転回してしまった。この踏跡の主は登頂を断念したのである。

暗い緊張の色を漂わせた空は、山がひっくりかえるような強い風を囀らせていた。けれど斜面はほとんど無風。積雪がしまってきたか、私の輪かんはもぐらなくなった。だが溪さんの輪かんときたらもぐりっぱなしである。私なら悲鳴を上げてしまひだろくにあきれた事だ。溪さんはたのしそ。12時 ヤグラ(三本脚)の建つ冠山に登達。ヤグラ下の雪を掘り下げ、かき上げたが、標石は見当らずガッカリ。中食後探しつづけ、ヤグラの脚外で一等の標石をめでたく掘り当てた。こんな怪体な経験は始めてである。また風もやかましいだけで、吹き寄せなかったのも妙。標石探しについて溪さんの断固たる執念による臥竜山につづく冠山での標石掘りはまさに名人芸であると特筆しておく。

羅漢山△1109m 津田

14時53分汐原奥を発ちR186・R119を走り、生山峠からの残雪も突進し、15時35分羅漢山直下950mに駐車。尾根道をしばらく進めば広々と快い草原につく。16時22分。はや登頂できたのである。この山の空は明るく、さらに眼をさえぎる一木もない。眺望に先程の冠山あり。360度がたのしめた。なごりつきない静かな山であった。

のりが山△733m 広島

この山名は、のりが高原の命名が多分のりが山の所在によってなされたと推察した筆者の私称である。山名は別にあるかも知れぬので念のため申し添えておく。

羅漢山を下って16時40分車上の人となり17時R185に出て17時30分のりが高原入口、17時50分、のりが高原P、山頂へはPから徒歩5分たらず、われながらよくやったものです。標石は一等でございました。

これで、とどこおりのり登る予定はめでたく果たした登頂の感激が、全身をうづまいている。それなのに物足りなさはまだどこかに残ってるみたいである。あ、私はなぜ満悦にひたり切れないのであろう。

5. 葛城山△957.7m 金剛山△1,112m 五条

友達来、その人は高知大学の山中二男氏、1月21日水越峠から両山を往復、私には葛城山は初登。山中氏は両山とも初登。それはともかく二人共霧氷美を賛える言葉に苦しんだ。どなたも登られるなら冬期になされるがよい。

6. ワラビの山△740m 横山

1月24日、山下兼君と。可愛らしい山なので軟積雪くらい何やねん、勇ましく取ついた。低くともやはり美濃のだ。ちょっとやさっとではね。でも二等の標石は測標のおかげで拝み、揚揚と下山。

7. 滝谷山△876m 北小松

1月27日 商用で外用、加茂川堤を走っていると正面へ白い山が現れた。私はいけないものを見た、これは危いぞと目をそらそうとしたが、あまりにも美しく、天気もよかった。遂に花背峠にPである。高い測標に行きつくと標石はまだ雪にうまったまゝ、その雪をほじくる。これがまた何ともいえない喜び。

測標の方向盤には佐々里村、久多村、比良ヶ岳、大原村、比叡山、二ノ瀬、棧敷ヶ岳と一次基準点測量時(昨夏)の文字が残っていた。

憑かれていったのは良かったかも知れないが雪道を底のちびつた短靴で歩いたため足の感覚をなくし、車にもどってもなかなか運転どころではなかった。

帰宅してから「大根登山家もいいとこだ。とおかしくておかしくて。

註 「溪さん」とは松浦勇次さんの雅号、溪斎の略称

昭和53年10月8日

例 会 報 告

例会№	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1188	京都府下30 山 その12 鴻応山	(変更) 9月17日	晴	本局 大槻雅弘	武田ファミリー 4人、吉田 ファミリー4人 三橋ファミリー 5人、大槻 ファミリー3人	例によってファミリーによる楽しい山行となったが、ブッシュで少し速まわりをして目的地に到着することが出来た。 別稿報告
1190	京都府下30 山 その15 16 三ヶ岳 と牛塚	10月 8日	晴	横大路 岡本義弘	宮後 正樹 吉田 武 三橋 勉	500m級の高原である童仙房からの登山なので三ヶ岳も牛塚も15分位で頂上に到着した。牛塚のヤグラの上で4人がラーメンの昼食を取りまわりの見晴らしのよい展望を楽しんだ後、鷲峰山に帰りに登ってきた。

部 員 動 静

- 〔異 動〕
- 本局へ 上河原 昇、尾崎重夫、河村 清、今井武夫
 - 西賀茂へ 井上 豊、 飯原京二
 - 横大路へ 川村博善
 - 錦林へ 浜田政治
 - 九条へ 田村忠司、 高橋豊次、 谷口義治
 - 烏丸へ 坂田利春、 台川敦美、 福本久雄、 大倉寛治郎
 - 市役所へ 池田弘之、 宮本吉章、 井上英雄

雑 報

▲ 10月集会報告

出席者 本局 岡田、大槻、三橋
梅津 吉田

小人教の集会であったが、岳連主催の登山祭の打合せを行なった。

▲ 第4回 理事会報告

鴨沂高校 53.10.12

1. 新規加盟団体(2団体)
京都岳人クラブ 京都峰友会
2. 技術研究登山報告
北ア、鋤杖岳 参加者 30名
3. 登山祭の準備について
4. 遭難者救助訓練報告
5. 府民登山大会について
6. 専門委員会 技術研修会 指導委員会
7. その他

▲ 企連リーダー会議報告

- 12月例会(案)
 - 12月 3日(日) 依遅ヶ尾山 担当 田中
 - 12月10日(日) 30山その18 地蔵杉 " 吉田
 - 12月23~24日 納山祭 湖南アルプス 迎不動
- 由良ヶ岳登山の最終打合せ
- 30周年記念行事の記念品(ハリケーンランプ)の交渉を進める
- 花背の「登山祭」会計報告について 大槻
- 名誉部員の推せんについて
- 11月企連リーダー会議 11月16日 吉田宅
- 12月集会 12月7日(木) 下鴨寮
- その他 岳連理事会報告

以上

HIKE & CAMP

この用具の事なら「二」が一番です!

御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ
そして
海の



中・二条通河原町西 TEL231-1208

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331 (代)

名古屋営業所
名古屋市西区児玉町7-30
TEL 521-7541代~4

テニス用品
スキー用品
山用品

交通局の皆さん
とりあえず 京菱へ
満足のいくようにします

京菱運動具店

下・大宮松原上ル
TEL 801-1331

お馴染みのスポーツ店

一般スポーツ用品・用具
家庭用体操器具

購買証でご利用下さい

KK 西沢スポーツ

中、釜座御池下ル
TEL 221-5739

昭和53年11月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局 四 京交山岳部

PRO SHOP
山とスキー チロル
 輸入品とオリジナルの店
 AM 12.00 ~ PM 9.00 三条御幸町下
 定休日 月曜日 (221) 6186

HORIIKE まかせて下さい…ネ
 KYOTO **山とスキー**
 のことなら一
 ☆在庫豊富にとり揃えています
 ☆山の道具は“セビ” 御相談下さい

山とスキー専門店
ビッグホリイケ
 河原町店 上・河原町通丸太町東入
 烏丸店 中・烏丸丸太町南下ル東側

真の専門店として
 好日山荘は前進しております
 山とスキー用具の
 ことなら御まかせ下さい
 確信ある用具を
 確信ある価格で…
好日山荘
 河原町六角下ル東入
 TEL 241-1731



山とスキーの店
京都 あるむ
 京都市中京区新町三条上ル
 ☎075-255-0288

京都最高のアクアラング用品専門店

- ウエットスーツ製造直売
- 潜水器具特別割引販売
- 現役プロダイバーと全日本潜水連盟公認指導員による
 安全確実な潜水指導 (毎週木曜 夜7時ヨリ)

ダイビングプロショップ
エリート

スキューバプロ (米)	京都総代理店
スキューバアプロ	京都総代理店
AMF ポイト (米)	京都総代理店
テクニサブ (伊)	京都総代理店

603 京都市北区堀川通北大路上ル東側 TEL 075 (492) 8450